

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 (初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン掲載))

【第11回】

一味違う心温まる活動をめざして (下関市立神田小学校放課後子ども教室)

山口県下関市立(豊北)神田小学校長 赤田 博夫

下関市立(旧豊北町)神田小学校は日本海のコバルトブルーとやさしい緑に囲まれた自然いっぱいの学校です。そして、神田小学校放課後子ども教室は今年5月に発足した、よちよち歩きの教室です。

立ち上げにあたって学校を開放することは地域と学校、保護者が一体となった子どもの安全安心の確保、本物に触れることの活動でより充実した時間の確保を目標としました。使い慣れた学校を開放することで子どもたちがのびのびと活動でき、また、学校は敷居が高くて行きづらいと考えられていた地域のみなさんの思いも解消することができると思えました。

先生方(指導者)の募集に際しては本当に来ていただけるか心配だったのですが、自治会連合会が積極的に動いてくださり、地域の方に呼びかけを行っていただいたことが大きな力添えになっています。また、参加する子どもたちの募集にはPTAのみなさんの賛同を得たことも大きな力となっています。校区のあらゆる皆さんの英知と真心が学校発の子ども教室に心温まる支援を送ってくださったのです。そして、この事業を始めて分かったことがあります。それは指導をお願いした先生方がプロの技をおしみなく子どもたちに伝えようとされていることです。

登録をしていただいた先生(地域の有志)は27グループ、69人になりました。皆さん、何らかのアクションを起こすことで神田小学校とのつながりを大切にしたいという思いに駆られています。このつながりを大切にして学校を拠点とした放課後子ども教室を発展させていきたいと考えています。

なお、今年度は毎週土曜日、長期休業中の月曜日から土曜日の午前9時から午後4時まで宿題や昔遊び、朗読、銭太鼓、大正琴、自然観察などいろいろな活動を行っています。参加をしている子どもは25人で全校児童数(44人)の半数を上回ったことが指導をされる先生方のやる気にも火をつけています。

そしてこの半年、子どもたちは毎回何らかの新しい発見をし、指導者の先生方は子どもたちからエネルギーを吸収し若返っておられるという相乗効果をもたらしています。

(初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第103号に掲載)